～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
（Ref No：21－044）

１　パラオ上院は、Peter Adelbai 氏の駐日大使任命を承認した。同氏は 2002 年から 2012 年まではグアムで領事や日本で外交官を、2012 年から 2013 年は台湾大使を務め、現在はアイライ州議会議員である一方、臨時代理大使として在京パラオ大使館で勤務している。
原文
（4th March 2022, Island Times）

２　オーストラリア空軍 C27J 航空機がパラオに到着し、2 週間にわたってパラオ海上警備・魚類野生生物保護部の巡視船 RemeliikⅡの海上監視活動を支援する。同巡視船は、2020 年 9 月にオーストラリアから供与された。
原文
（4th March 2022, Island Times）

３　パラオ法務省公安局は 2 月 28 日、新たに任官する 7 名の警察官を迎え、宣誓式を開催した。
原文
（1st March 2022, Island Times）

４　日本の農林水産省は、パラオの農業・漁業・環境省農務局畜産課の職員 7 名等に対し、食肉加工技術に関するオンライン研修を実施した。2021 年 5 月、ウィップス大統領と野上農林水産大臣（当時）は、農業協力に関する覚書に署名した。
原文
（1st March 2022, Island Times）
※在パラオ日本国大使館（リンク参照）

５　ミクロネシア連邦（FSM）のディビッド・パニュエロ大統領は、FSM はアメリカ本土防衛の構成要素であり、ヤップ州はこの地域での米軍再配置に役割を果たすと述べた。ヤップ州に恒久的な基地を設置する計画はないが、米国防総省は、必要に応じてヤップ州の空港と港湾施設を軍事作戦に使用するつもりだ。米連邦航空局は資金援助プログラムの一環としてヤップ国際空港の滑走路の修復に 3,700 万ドルを投入する。パニュエロ大統領は、「（プロジェクトは）米国の軍事的再配置という点で米国にだけでなく、相互に有益でなければならならず、空港と港湾施設が国際輸送の目的で使用されることを確認する」と述べ

つつ、「米国は、FSM は国防の一部だと言った。FSM に対する脅威や攻撃は、米国に対する攻撃と見なされる」と述べた。
原文
（2nd March 2022, Islands Business）

６　ミクロネシア連邦（FSM）はロシアとの外交関係断絶をロシア側に通知した。パニュエロ大統領は、「ロシア政府が人類共通の平和、友情、協力、愛へのコミットメントを示した場合にのみ、ロシアとの新たな外交関係を受け入れる」とし、「FSM 国民及び政府は、我々と同じく民主主義と法の支配を受け入れるウクライナ国民及び政府と連帯する」と述べた。
原文
（28th February 2022, PACNEWS）

７　マーシャル諸島海洋資源局（MIMRA）は、1 月のマグロ類の積替え・荷下ろしが 38 回を記録し、堅調なスタートを切ったと述べた。過去 4 年間で、1 月の積替えは 13～29 回であり、38 回は COVID 前の月間平均と同程度である。台湾の船舶が 12 回で最も多く、続いてミクロネシア連邦が 8 回、マーシャル諸島とナウルがそれぞれ 6 回、中国、韓国、パプアニューギニア及びツバルがそれぞれ 1 回又は 2 回だった。（※SRO News21-040 参照）
原文
（25th February 2022, Marshall Islands Journal）

８　2022 年の G20 議長国であるインドネシアは、G20 の各種会合に小島嶼国を代表して太平洋諸島フォーラム（PIF）を招待すると述べた。カリブ共同体（CARICOM）も招待される予定。小島嶼国は気候変動の犠牲者と考えられると、インドネシア外相の特別スタッフは述べた。
原文
（28th February 2022, Islands Business）

９　太平洋諸島フォーラム（PIF）議長国フィジーの国連常駐代表は、ウクライナに関する国連総会の緊急特別会合で、全ての国々によって国連憲章を守られることを確保するため、ウクライナでの戦闘と苦しみを終わらせるよう呼びかけた。
原文
（1st March 2022, PACNEWS）
※参考：PIF HP（リンク参照）

10　シンガポール国立大学で最近の国際法問題に関する演説を太平洋諸島フォーラム（PIF）のプナ事務局長が行った。シンガポールは PIF の対話パートナーとなっており、今回、国際法、COP26 と気候・海洋問題、国家の地位及び国際人権法をカバーする 4 週間の研修が実施される。
原文

（2nd March 2022, Pacific Islands Forum）
※シンガポール外務省 HP（リンク参照）

11　サモアの排他的経済水域で米沿岸警備隊の巡視船 2 隻が、サモアのパトロールボートが活動できない中、IUU 漁業抑止のための監視パトロールを行った。2019 年にはサモア警察省と水産省の職員が米沿岸警備隊の巡視船に乗船してパトロールを実施したほか、2021 年にも同様のパトロールを実施するなど、米沿岸警備隊とサモア政府にはパートナーシップの歴史がある。
原文
（28th February 2022, DVIDS, Defense Media Activity, US DoD）

The Marshall Islands Journal — Friday, February 25, 2022

Purse seiners off load tuna on to a mother ship in Majuro lagoon.

Tuna transshipments pick up

The new year got off to a solid start in tuna transshipment, with a total of 38 transshipments and unloadings at dock side in January, reported MIMRA this week.

The first couple of months of the new year are often slow months for transshipment. Over the previous four years, the January transshipments ranged from a low of 13 to a high of 29. Last month's 38 matches the monthly pre-Covid average that established Majuro as the world's busiest tuna transshipment port from 2015. MIMRA data shows that 33 purse seiners transshipped their tuna catches to carrier vessels anchored in the lagoon, while five purse seiner split their tonnage into unloadings at dock side and to carrier vessels. Taiwan vessels accounted for the most with 12, followed by FSM vessels with eight transshipments and unloadings. RMI and Nauru flagged vessels had six each, while China, S. Korea, Papua New Guinea and Tuvalu had one or two each.

Tuna transshipments 2014-2021

Year	Number	Metric Tons
2014	382	158,065
2015	504	368,323
2016	551	403,809
2017	424	292,754
2018	403	307,164
2019	449	362,454
2020	175*	118,743
2021	299*	226,762

** Transshipments from March to December 2020, and from January to April 2021, were affected by Covid-prevention port entry restrictions.*

Source: Marshall Islands Marine Resources Authority Oceanic Division.